

先天性心疾患 成人移行 通院途絶防ぎ

県内7専門病院 ネットワーク構築

静岡県成人先天性心疾患ネットワーク 始動



途切れのない医療で、患者のQOL向上と健康寿命の延伸へ

経過観察継続へ情報共有

先天性心疾患の患者が成人期への移行に伴って通院が途絶える「ドロップアウト」が課題となる中、県移行期医療支援センターが6月末、患者情報を共有・管理する「県成人先天性心疾患レジストリー」を開設した。フォローアップ体制の整備に向けて県立こども病院など県内7病院がネットワークを構築し、患者を掘り起こして専門医療へのつなぎ直しを図る。

先天性心疾患の患者は治療後も不整脈や心不全などのリスクがあり、生涯にわたり継続的な経過観察が必要になる。ただ、専門性が高く、一般の内科やクリニックでは適切な管理や検査が困難な場合が少なくない。

進学や就職などライフ

イベントが重なる成人期を迎えると、環境の変化や小児病院から成人病院への移行に伴って通院を中断するケースは多い。変わらない日常生活が送れることから受診が遠のく人もいる。患者が成人になった状態を指す「成人先天性心疾患」の患者のうち、継続的な経過観

察を受けているのは約2割にとどまる。県立こども病院心臓血管外科科長の広瀬圭一医師は「急に状態が悪くなることもあり、経過観察を受けて生活の質(QOL)を維持することが必要」と話す。

ネットワークには県立こども病院のほか、県立総合病院、静岡市立静岡病院、順天堂大付属静岡病院、中東遠総合医療センター、聖隷浜松病院、浜松医科大学付属病院が参画した。

レジストリーには、患者自身が居住地の郵便番号やかかりつけの有無、かかりつけの医療機関などを登録する。疾患の最新情報や医療相談、医療機関の紹介を受けることができる。東中、西部それぞれで専門医療を担う7病院が連携して患者の医療アクセスを確保する。登録情報から県全体の実態を把握し、必要な支援を明確にしていきたい考え。登録は県内一部の病院内に掲示されているポスターなどのQRコードから行う。

医療の進歩によって多くの先天性心疾患の患者が成人期を迎えられるようになったのは、この十数年と歴史が浅い。広瀬医師は「患者の状態がどうなっているかは、まだ分かっていない。患者の実態把握は、今後何か問題が起きてきた際のアプローチにもつながる」と考える。

(社会部・佐野由香利)

静岡県 成人先天性心疾患 レジストリー [SACHDRS]

静岡県移行期医療支援センター
静岡県成人先天性心疾患研究協議会事務局

県成人先天性心疾患レジストリーを紹介するチラシ